

101-292

問題文

前問で推奨される追加薬物に関して適切なのはどれか。1つ選べ。

1. 導入直後から心筋の収縮力が改善する。
2. 治療薬物モニタリング(TDM)の対象薬物である。
3. 導入時に高用量の負荷投与を行い、続けて維持量を投与する。
4. 導入時に心不全が悪化することがある。
5. レニンの分泌を促進する。

解答

問292：4問293：4

解説

問292

ガイドラインによれば、慢性心不全患者へは ACE 阻害薬がまず第一に推奨されます。ACE 阻害薬への忍容性に乏しい場合は ARB を使用します。さらに、予後の改善を目的としてβ遮断薬を用いることが推奨されます。他に、症状に合わせて抗アルドステロン薬、利尿薬、ジギタリス経口強心薬、静注強心薬などを用います。

本症例では、ARB 使用中であり、追加としてはβ遮断薬の導入が適切と考えられます。選択肢の薬剤は、それぞれ、1：強心配糖体、2：ループ利尿薬、3：ACE 阻害薬、4：α,β 遮断薬、5：β刺激薬です。よって、推奨されるのはカルベジロールです。

以上より、正解は 4 です。

問293

カルベジロール（アーチスト）は、β 遮断薬です。心臓の機能を抑制して無理をさせなくする薬です。

これは心臓をマラソンランナーに例えると、頑張りすぎたのでペースが落ちてきた。→ もう体がぼろぼろだから、休ませるために β 遮断薬を投与。というイメージです。うまくペースをおとし適切なペースに移行できる→「楽に走り続けることができる」状態になります。そうすると、体（心臓のこと）も保護できるし、結果的にそこそこ走ることができるという状態になっていく という流れです。

とはいえ、心臓の機能が落ちつつあるのが心不全なので、更に機能を抑制すると、息切れや呼吸困難などの、種々の症状がむしろ悪化することがあります。ペースがぐっとおちると、余計に疲れるしかも、全然進まない。みたいな感じです。そのため、特に導入時には症状の変化に注意が必要な薬です。

また、用法も特殊で「少量からの漸増投与」という用法になっています。

以上をふまえて、各選択肢を検討します。

選択肢 1 ですが

心機能を抑制する方向に働くので、心筋の収縮力が改善するわけでは、ありません。よって、選択肢 1 は誤りです。

選択肢 2 ですが

TDM 対象薬では、ありません。（問 292 の選択肢の中では、ジゴキシンが TDM 対象です。）よって、選択肢 2 は誤りです。

選択肢 3 ですが

これは、禁忌肢になっていいかと思います。非常に危険です。全く不適切です。

選択肢 4 は、正しい選択肢です。

選択肢 5 ですが

β 遮断により、レニン分泌は抑制されます。よって、選択肢 5 は誤りです。

以上より、正解は 4 です。